

日本企業が注目するブラジルパワー

世界のマネーはブラジル株や通貨レアルから流出傾向にあります。中長期的な成長を見据えた、日本企業による成長国・ブラジルへの投資活動は引き続き活発です。

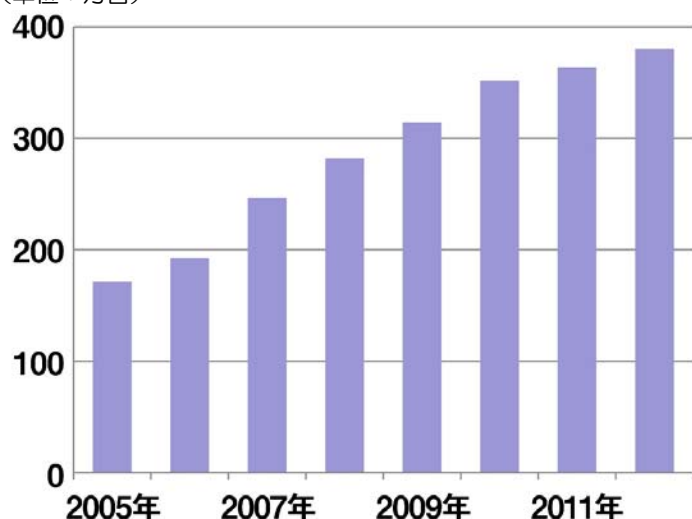
例えば、本田は約430億円を投じて、四輪車の現地新工場を建設する予定です。ブラジルの自動車販売は右肩上がりに伸びており、2012年には中国、米国、日本に次いで世界第4位に躍り出ました。本田は2015年の新工場の稼働にともない、年間生産能力を現在の12万台から24万台へと倍増させる計画です。

また、三井物産は農業生産事業大手SLCアグリコラ社と現地合弁会社を設立しました。FAO（国連食糧農業機関）によると、食糧需要が世界的に拡大する中で、現在ブラジルは世界第1位の農畜産物純輸出国です。さらにセラードと呼ばれる未開墾のサバナ地帯がまだ多くが残されていることから、今後も食糧安定供給国として輸出の拡大が期待できます。これらを背景に、三井物産は現地の有力パートナーと協業し、さらなる市場規模の拡大に取り組んでいく計画です。

日本企業のブラジル投資は引き続き活発であり、成長国ブラジルへの中長期的な発展に対する期待は変わらないものと考えられます。

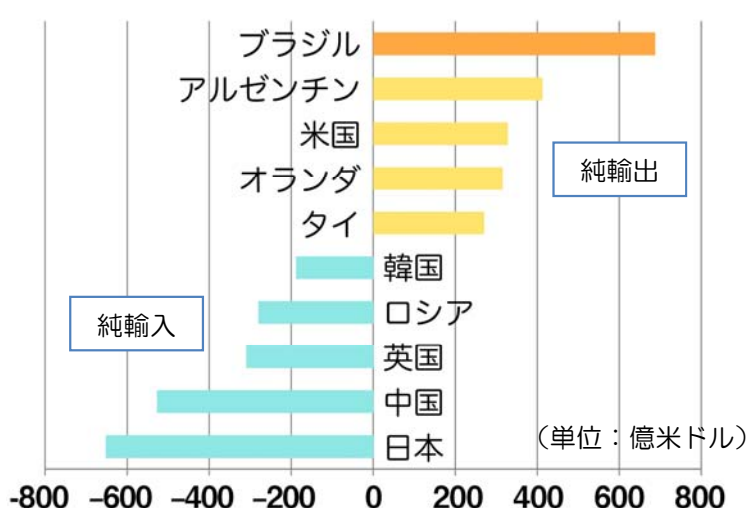
*「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国(ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア)を指す。

(単位：万台) **ブラジルの自動車販売台数**



(出所) OICA（国際自動車工業会）

農畜産物の純輸出入額(2011年)



(出所) FAO（国連食糧農業機関）

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。

<審査番号:111283.OTHER.MED.OTU> © 2013 Goldman Sachs. All rights reserved.